

スクールカウンセラーからのお便り

夜、虫の音が聞こえると、“秋”を感じます。先日の「中秋の名月」は満月。素敵でしたね。

一方、学校では遠足、運動会、音楽会など行事が続きます。地域では、秋祭りが完全復活してきました。季節の移ろいに一息つく間もなく、子どもたちも保護者も気ぜわしい毎日です。

連日どんなに忙しくても、子どもは日々、心も身体も成長しています。いきなり学校不適應な状態になったりすることもあります。

今回は、「前思春期（3、4年生ごろから）」に着目してみたいと思います。

前思春期の心の発達

○理解・判断・実行する力（認知的機能）が変化

- ・低学年のころまでは、見たまをそのまま直感的に記憶して、認知します。
- ・中学年になってくると、物事に対し「意味づけ」「決まりや法則」を見出して、理解し、記憶しようとし始めます。
- ・抽象的な概念や、長期的な見通しをもった時間感覚が育つようになっていきます。
(※抽象的概念：具体的な経験内容から、本質的なものを取り出して、考えを深める力のこと。
たとえば、算数では、速さや割合など)



○「自分はなぜ自分なの？」と感じる子がいる（自我体験）

- ・何かの瞬間に「なぜ自分はここにいるの？」「本当にこの家の子？」「自分は死んだらどうなるの？」「宇宙って??」など哲学的な問いが心に湧いてくる子がいます。
- ・「自分という存在」に対する強い違和感や今までの当たり前が当たり前でなくなる衝撃的な感覚の体験を自我体験といいます。このような体験を全くせず大人になる人もたくさんいます。
- ・自我体験は、成長過程で約1割の人が体験するという調査結果があります。

○「我々意識」（ギャング・グループ）と「親友」（チャム・シップ）

- ・ギャング・グループは、集まって結束力の高い仲間集団のこと。以前は集団での外遊びが多かったですが、最近はゲームで繋がっている子もみられます。
- ・気の合う仲間同士での集団参加への意識が強く、男子だけのグループである事が多いです。
- ・チャム・シップは、同性の友人との鏡映しのような親密関係のこと。一体感のある関係を維持し、お互いの共通点や内面の類似性を確かめ合おうとします。
- ・相手に対し自分と少しの違いも認めたくない傾向にあり、主に女子同士のグループで生じます。

・このように仲間を求める意識は、安心感を保ちながら、自分を見つめようとする健全な心の成長過程でもあります。しかし、幼児期からの仲間関係作りが希薄だったり、経験不足だったりして、この時期、友だち関係で悩み、心が沈んで、自己肯定感が下がる子が増えているようです。

低学年の子どもの保護者は、短時間でも一緒に“遊び”を！

遊びには、情緒的な絆（きずな）を強める働きがあります。

親子関係を強める遊びは、親子で一緒に作り上げる共同作業的な遊び（お菓子作りや料理、工作、パズルなど）が適しています。15～20分でいいので、親子や兄弟で分担し、協力して、共同でできる遊びに集中しましょう。

もし、どうしても遊べない時は、無理な理由もわかりやすく伝え、きちんと謝（あやま）る姿を見せましょう。親が謝ることができないと、子どもも謝ることはできません。親は、自分の非を認めることも大事です。子どもにとって、親の行動は重要なお手本です。

子どもの心の発達も、身近な保護者を手本にして成長する部分が多いものです。



ご心配なときは、学校を通してお声をかけてください。

[文：S. C. 五百蔵 佳世子]